

TALKING WITH OVERSEAS

アイボールQSO

J L I E E 井上 博

私は、HF帯でFBなQSOができて相手が日本に来るチャンスを持ってあげれば、勤務先と自宅の電話番号を教えてください。後にアイボールQSOが実現することもあるものですから。

Give me a call in case you get a chance to visit Japan. I give you my numbers. 03-1234-5678
This is my office number. And my residence is 048-123-4567.

(日本に来るようなことがあれば電話ください。私の電話番号をお教えしますよ。03-1234-5678これは勤務先の番号です。それから自宅のほうは048-123-4567です)

バラバラッと言うと番号を取り損ねることもありますが繰り返します。

Let me repeat. Zero Three... this is the area code. You don't need to dial 03 when you are in Tokyo, then 1234-5678. Again, my home number... well, the first three digit is the area code.

(繰り返しますよ。ゼロ、サン...これは市外局番です。あなたが東京にいる場合は03はダイヤルしなくてもいいんです。それから、1234...それともう一度、家の番号はと...最初の3桁が市外局番です) それと週末には会社に出ないことも言っておいたほうがいいですよ。

I normally work five days a week. So, you can reach me at home number on Saturday and Sunday.

(私は通常、週5日勤務です。ですから、土曜と日曜日には自宅の番号のほうにいます)

すると相手によっては...

OK. Hack. Thank you for giving me the numbers. I'll surely call you. It is very interesting to see you on the ground. I also give you my number. Please be sure to give me a call when you are in my city.

(オーケー、ハック。電話番号を教えてください。地上で君と会うのもいいねえ。僕のものも教えるよ。君がこちらに来た時も、必ず電話くれよね)

お空で会うのが“on the air”なら、直接本人と会うのは“on the ground (地上で)”ですかしら。おもしろいですね。私たちは直接自分の目で会うので“eye ball QSO”ともいいますね。こうして電話を実際にくれる人も、結構いるものです。相手が国際ビジネスマンだったりすると、意外と彼が日本出張などで早めにこれが実現したりします。ある日曜日のこと、家でくつろいでいると電話がかかってきました。XYLが「はい、もしもし」と電話に出ましたが、何か様子が違います。

Ah... A moment please...

(あー、ちょっとお待ちください) 彼女が、そう言うので「英語の電話だよ、無線関係の“あな”と私に振り向きませんでした。私が代わりますと...

Hello, this is V85HS. I am now in Tokyo. Can I see you Hack?

(ハロー、V85HSです。今、東京にいるんだけど、会えるかいハック?) いきなりコールサインを告げられても、すぐには



ピンとこないもんですね。無線機のスピーカから出てくるのは違って、電話の受話器から耳元に入ってくるアルファベットや数字の組み合わせがコールサインと分かるのに、ひとタイミングが必要です。

彼は、以前楽しくQSOしたV85 (フルネイ) のMr. Sharbiniでした。たった1度のQSOでしたが、電話番号を覚えてあったのです。

Oh, surprise, I am happy to have your call Sharbini. But, it is little late now. Do you have time tomorrow evening? Where do you stay in Tokyo?

(オー、驚きだよ。シャルビニさん電話をいただいて嬉しです。だけど、今の時間はちょっとばかり遅いから、明日の夜は時間あるの? 東京のどこにいるの?)

I have to check my schedule for tomorrow. Your home is far from Tokyo?

(明日のスケジュールをチェックしなければいけないけれど。君の家は、東京から遠いの?) 近ければ、すぐにも行ってもいいけれど、通勤時間1時間半じゃあね。それに、今は夜の8時を過ぎたところです。幸い、彼は翌日に時間が取れることが分かりました。また滞在先は彼の甥が働いているフルネイ大使館の隣のこと。偶然にも、私の働く会社のスパーローカルでした。シャルビニさんは、フルネイ国防軍の高官でした。彼にとっては初めての無線家とのアイボールQSOということなので、無線家の対面でした。別れ際に彼が言いました。

Why don't you come to RECEPTION of National day tomorrow? I would like to invite you. OK?

(明日、フルネイ国のナショナルデーのレセプションに来ませんか? 君を招待したいんだけど...いいかい?)

都内のホテルで、フルネイ大使館主催で行われるめでたい席とのこと。おもしろそうなので「伺います」と答えました。パーティーには各国の大使館の方々がお祝いに駆けつけて来られていて、一般人の私なんか「ここに居てもいいのかしら?」という雰囲気です。緊張気味でしたが、シャルビニさんが気を使ってリラックスモードを作ってくれました。しばらくすると我々のテーブルに民族衣装を着たフルネイの駐日大使がニコニコと近づいて来られました。

お付きの人たちが難しい顔で大使をとり囲んでいます。やはり、要人にはシークレットサービスの的なガードがくっついていてくれるようです。全員緊張の面もちで迎えると、シャルビニさんが私を大使に紹介してくれました。

This is Mr. Inoue, my radio friend.

(こちらは無線の友達井上さんです) 大使が私と握手をしながら...

Radio? Is that HAM Radio?

(無線? アマチュア無線ですか?)

全員が「イエス、イエス」と合唱するように答えますと、大使はなんと...

I know that. As a matter of fact, my call-sign is 'VS5PM'. I was the first 'license holder' in Burnel.

(それ、知ってますよ。実は私のコールサインはVS5PMで、私はフルネイで最初のライセンス取得者なんです)

...と、言ったので全員びっくり。シャルビニさんも知らなかったし、大使の取り巻きの人たちも初めて知っていました。フルネイの昔のアイフックスは“VS5”でした。ビックリのオマケ付きのミーティングになりました。

TALKING WITH OVERSEAS

インターフエアの思い出

J L I E E E 井上 博

TVIやテレフォンIは嫌ですね。皆さんは経歴がありますか？私のアマチュア無線歴にもこれは沢山ありました。思い出深いものでは私が独身の頃、会社の寮に入っていて寮の屋上にその当時はまだそんなによくは無かった3エレメントの木アンテナを振り回してDXingを楽しんでいた頃の話です。

東京都内でも一、二の高台にあったこの寮は5階建て、さらにアンテナは屋上から10メートルほど持ち上げたところに設置したので、まさに「よく飛ば」アンテナでした。

したがって、休みの日などは大変にアクティブティが上がったものです。一日中電波を撒き散らしていたんですね。ある日、仕事場に電話がかかってきました。相手はNHKの職員の方でした。「井上さんですか？無線をやっておられますよね」と言うのです。「はい、そうですが…」すると「実は貴方の近所のI軒のFMラジオに妨害電波が入るといふ情報がありました。なんとかしてもらえませんか」という会話になりました。

何とかするって聞いていても、状況が分からないので、ちょっと手の打ちようがありません。「いい、どのお宅にどうい風に入っているんですか？」と聴くと、「実は貴方のお住まいの建物のお向かいの外人さんの家なんです」「状況は不明ですが、NHKに相談がきています」とのこと。

その外人さんのお宅に行っただのかを尋ねると「いいや、まだなんです」という返事。では「明日の休みに私の寮に来られて、その上で外人さんのお宅と一緒にいきますか？」と言うと、実に困ったように「日曜日ですか？」と嫌がります。そこで私は「じゃ、私が一人で伺い、必要があればそれなりの手を打ちましょう」と言うので、「じゃあ、お

願いできません」となりまして。私は、使うかもしれないハイパスフィルタを秋葉原で買って、その夜のうちに問題の家を訪問しました。

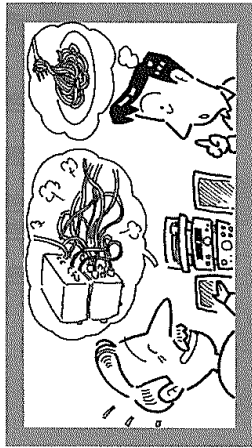
当時は仕事が海外担当ではなかったので、せいぜい無線英語ができる程度でした。でも「何とかなるさ」と、ドアを叩きました。西洋人はドアを叩くとき、何回叩くのかな？2回かな、3回かなと、そんなつまらないことでも外人の家を訪問するのが初めてとあれは気になるものです。少々緊張気味でドアを見ると、ベルの押しボタンでした。「なーんだ」というわけでした。でも、相手は「FMラジオI」で怒っているかもしれない。「怖いよー」

A moment please...
(ちょっとお待ちを～)
女の人の声がしました。足音が近づいてきて、不思議そうに私を見る顔が結構美人さん出私は軽く微笑して...

Hi, good evening. My name is Inoue, your neighbor. I live in the building in front of you.
(ハイ、こんばんは。私の名前は井上です。ご近所です。向かいのビルに住んでいます)

Oh, Yes... Mr... ah...
(おお、そうですか。ミスター...え～と...)
I回では日本人の名前を聞き取れないようですね。

Well, I understand you have some trouble with FM radio. As a matter of fact, I am running an amateur radio station there.



(あー、お宅のFMラジオに何か問題があるって聞いたものですから、実は私はアマチュア無線局をそこで運用しているんです)

Oh, oh oh, I see. Honey~!
(おお、おお、分かりました。あなた～！)
家の中に声をかけると、ご主人が出てきました。早口で奥さんが彼に説明をすると...

Yeah... Inoue... san! I am glad to see you. Would you come in?
(やあ、井上さん！お会いできて嬉しいです。中へお入りください)
ニコニコと笑って入れてくれました。良かった～、いきなり怒られなくて。

May I see your radio? I have brought one device which might solve the problem.
(お宅のラジオを見せてもらえませんか？問題が解決するかもしれない部品を持ってきましたよ)
Please please! Here is my set.
(どうぞ、どうぞ。これが私の設備ですよ)
ハイファイのステレオ装置の置いてある部屋でセットの後ろ側の配線を点検すると、ごちゃごちゃとケーブルが絡まっていた。彼が言いました。

Spaghetti ha? Would you care for coffee?
(スパゲティでしよう？ね？ コーヒー一召し上がられますか？)
この時、配線がグチャグチャに絡まっていた状態を「スパゲティ」と表現することを知りました。コーヒーとスパゲティを勧められているわけではありせんよ。

ハイパスフィルタをFMチューナーのアンテナ端子につなぎ込みをしながら、自分の紹介、職業の紹介等をして何となく打ち解け合いました。

The device are all set. Let me run home to turn on my radio. I will do test transmission. Can you tape it on your tape recorder?
(部品は全部付きました。送信テストをしますので走って家に帰らせて。それをテープレコーダーに録音してもらえませんか?)

Sure, But, you don't need to run Inoue san.
(いいですとも、だけど走らなくてもいいんですよ井上さん)
テスト送信の結果を再び彼の家で聞かせてもらいました。非常に低いレベルですが、SSB電波のAM変調音である「モガモガ」が録音されていた。

I am sorry. It was not the perfect solution. Please let me try again with any other good ideas.
(すみません。完璧には解決しませんでした。他の良い方法をまた試させてください)
でも彼らは...

Inoue san. Don't worry anymore. It is nearly perfect. You did your best. We are happy with this.
(井上さんご心配なく。ほとんど完璧ですよ。貴方はベストを尽くしてくれた。我々はこれでオケイですよ)
そう言って、奥さんがビルをついでくれました。話とても嬉しい瞬間でした。その後の素晴らしい話で彼は有名な外国の経済雑誌の日本支局長であることや、奥さんのお父さんがアメリカでハマをやっていること、お父さんがTVIなどを起こしていたことなどを知り、大変感激したものです。これは20年以上前の出来事で、彼の名前も奥さんの名前も申し訳ないんですが思い出せません。言葉が通じた喜びもさることながら、アメリカ人のオープンさが(人によっても違うのでしょう)が、知ることができました。また、大事な趣味を続けたくて勇気をもって事に当たった自分を思い出し、懐かしく思います。

TALKING WITH OVERSEAS

伝搬実験

J L I E E E 井上 博

最近は、お空のコンディションが全くダメですね。太陽活動最低期は、特にHFハイバンドが悪くて東南アジアなどの近場ですすらく聞こえませんが、「どうせコンディションは悪いのだから…」と、近所のレンタルビデオ屋で借りてきた映画「グレイハード3」を観てしまいました。映画の後はお茶で一休みをして、午後3時にシャックに入りました。

休日はパケットクラスターにコネクトしてそのままにしてありますので、とりあえずDXレポートを見えます。おや? VK4(オーストラリアのクイーンズランド州)が29.600MHzのFMで入感したようです。時間は、今から1時間ほど前のようです。早速、29.600MHzを聞いてみます…が、何も聞こえません。ちよっと遅かったようです。28MHzのSSB帯でも、聞こえるのはノイズのみ。それじゃ、21MHzを聞いてみますよ。V K 8か。すると、バイラルアップが聞こえます。V K 8 M Iです。これはI O T A (Islands On The Air)のDXペディションですね。I O T A ナンバーはO C -173ということ。無線機のダイヤルを回すと、ほかにもV K 局が入感しています。その中でも特に強そうな局がいますので声をかけてみます。コールサインはV K 2 N P H (ニューサウスウェールズ州)で、前のJ A 局とのQ S O が完了したところでコールしますと応答がありました。

My name is Paul. You are 59 very strong. (僕の名前はポールです。そちら59で大変強力です)

とのこと。何か今日は太陽活動に、少しばかり異変でもあったのでしょうか?こんなに楽にQSOできるのは久しぶりです。

Paul. I think the condition looks unusual today. I hear many VK stations on 21Meg and Packet Cluster tells about some openings to VK 4 area even on 29Meg FM.

(ポール、今日のコンディションはいつもと違うみたいだね。21メガでは沢山V K が聞こえるし、パケットクラスターには29メガのFMですすらく入ってられているよ) そう言うと、彼が言うには…

Hack, 28MHz is my favourite band. Can you QSY to twenty eight decimal four seven?

(ハック、28メガは僕の好きなバンドさ。28.470へQSYしてもらえないかな?) ちよっと面白そうですね。

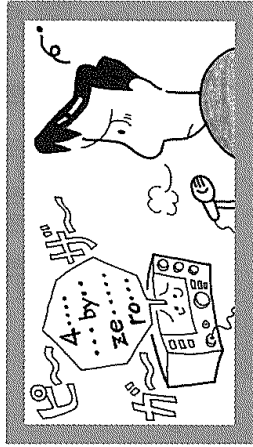
Yeah, OK Paul. I am also interested in 10 meter band. I will call you on that frequency. If no copy, We come back to this frequency. Is that OK with you?

(うん、オーケーだよポール。僕もテンメーターには興味があるんでね。その周波数で君を呼ぶよ。もし聞こえなかったらこの周波数に戻ろう。それでいいかい?)

OK, I am listening both the frequency. See you on 10 meter then.

(オーケー、どっちの周波数も聞いているよ。じや、テンメーターでね)

「どっちの周波数も聞いているって?彼、今流行りのデュアルウォッチ機能付きの無線機でも持



っているのかな?」と思いつつ、28.470MHzにダイヤルをセットします。最近は便利ですね。クイズQSYがすくにできちゃいます。昔は、バンドを変えるのは大変だったよね。アンテナだって、トライバンドナーなので切り替えは不要です。などと考えながら、彼のコールサインを呼びます。

VK2NPH this is J L I E E E do you copy, Paul?

(VK2NPH こちらはJ L I E E E...オーケー、ポール取れるかい?) 何か信号らしいものが感じられますが、これかな?

Paul, I wonder if you can hear me or not but, I am hardly copying you. I will QSY back to 15 meter.

(ポール、僕が聞こえるかどうか分からないけれど、こちらはほとんど取れないよ。21メガに戻るからね)

Hack, your signal was too light three by zero.

(ハック、君の信号はとてもか細かったよ。30つてどこかな)

信号強度が“ゼロ”という表現は、ちよっとどこかなと思いますが、彼は何とか取れたのでしようか。怖い、私の4エレではほとんど聞こえなかったのに。

I was not able to copy at all. The condition on 10 is not as good as 15. By the way, What sort of antenna do you use for ten meter?

(僕は全く取れなかったよ。10メーターのコンディションは15メーターほど良くないようだね。と

ころで、10メーターのアンテナはどんなの使ってるの?)

I have a 5 element monobander on a 15 meter tower. I will swing my antenna exactly to North. Can you try again Hack? Because, I prefer 10 meter to other bands. I hope 10 meter condition is improving.

(15メーター高の5エレメント・モノバンドナーを持っているよ。アンテナを正確に北方向に振ってみるからね。もう一度やってくれないかな?他、ほかのどのバンドより10メーターが好きなんだよ。コンディションが上がっているといいんだけど…)

OK Paul. I am also adjusting my beam point exactly to South. Try it one more time on the same frequencies.

(オーケー、ポール。僕も同じくビーム点を正確に南方向に調節してるよ。同じ周波数でもう一度やってみよう)

さて、今度はどうかかな?もう一度コールしてみますと…

Roger Roger. ...re four by ze... by zero. ...you roger?

(了解、了解、そちら40、40です。了解ですか?) 弱いながらQSBを伴ってちよっとだけ聞こえました。こちらからは21のレポートを送って21MHzに戻ります。ここだと59アラスなのに…。パケットクラスターのMUF (最高使用可能周波数) コマンドをキーボードから入力すると、ノード局から答えが来てきました。これによれば今日「V K 2 エリアとは10パーセントの確率で26.2 MHz」とありました。50パーセントの確率でも21.6 MHzとのこと。28MHzでレポートが40と21のQSOがからうじてできたのです。彼にこのことを伝えると…

Is that so? That's great. Hack. Thank you.

(本当?すごいや。ハック、ありがとう) と、大喜びです。結構、今日は楽しめましたよ。